



会って、聴いて、心の壁を取り除く。背景を知り、寄り添える。「きもちトーク」

十二月三日〜九日は障害者週間です。きもちトークは障がいのある方、家族等の方々が自分の言葉でそれぞれの想いを伝えていく発表会です。きもちトーク過去の文集から抜粋掲載致します。「障がいを受け入れたら気分が楽になりました」。25歳頃から徐々に足が動かなくなり、次第に身体が思うように動かなくなりました。人生半ばにして、障害を背負い中途障害者になりました。未だにはつきりした原因治療法は判っていません。車イスに乗ってれば障害があると相手に納得させるのは簡単です。しかし、自分を納得させるのは難しい。歩き回れた自分と現在の自分の葛藤が何年も続きました。

ある日、食堂に入り、酔っ払いに間違われて入店を断られました。このままでは食事ができないと「私は酒は飲んでいませんが、身体がふらついてしまう病気なのです。」と告げたら席に案内してもらえませんでした。言葉でいうと簡単なことのようにですが、私の中では大変勇気のいることでした。自分から言えば周りの人に受けわかってもらえるんだと気づきました。「難病を抱える六十代男性」

「生まれた時、すぐに障害があることがわかったようです。学校に行っていた九年間は人生最初の試練の場でした。例えば、私が歩いていると私の歩き方を真似て後ろから付いて来られたり、仲の良かった友だちと遊んでいると、その子の親が足早に来て、私の側にいると病気をうつされるから、一緒に遊んではいけないと友だちを無理に連れて行ってしまったことなど、色々ありました。中学卒業後、料理屋の門をたたき親方から「この仕事は大変な仕事だけど、これしかないという強い気持ちがあればできる。そういう身体だが、特別扱いしない。普通のやつと同じ扱いするからな。」厳しい言葉でしたが、私にとって生まれて初めて人間として認められた気がしました。「男性」

平成十年から始まったきもちトークの文集を拝読し、発表された方の肉声が聴こえてきた気がします。

耳の聴こえない方、目が見えない方、事故で脳の機能障害を持った方、脳性まひの方、脳の機能障害で発作のある方、精神を病んで苦しんでいる方、それぞれ

の悩みや苦しみ、喜びや生き方が見えて来ました。

都電で福祉作業所に通勤されている知的障がいの方たちがおります。乗客の方たちは、毎日一緒に一両編成の同じ空間で過ごしているうちに、その障がいを受け入れて理解されるようになりました。

自分と違う人たちと思うと避けてしまいましたが、その方の置かれた背景や見えより、近くに感じ理解し寄り添える。様々な人生、様々な人を受け入れられるようになる、自分が穏やかな気持ちを持つるのではないかと思いました。

今年のきもちトークでは認知症になられた方や脳性まひでボランティアをされる方などの発表を予定しております。

きもちトークに参加して、会って聴きにいらしてください。

過去の文集は、[アクロスあらかわ](http://across.arakawa-shakyo.or.jp)で閲覧できます。

☆きもちトーク☆

【日時】12月2日(日) 13:30~16:00

【場所】アクロスあらかわ

(荒川区荒川2-57-8 町屋駅徒歩5分)

電話：3803-6221 FAX：3803-6222

E-mail：across@arakawa-shakyo.or.jp

入場無料